

吹田市 大和大学

地域の高齢者を元気に! 学生の学びを生かした つながり瓦版!



趣味や特技を生かした
関わる方も!



(上段左から)【教授】菅沼一平さん 【4回生】生島蒼宙さん いくしま あらたむ
【社協職員】山本浩世さん やまもと ひろよし
(下段左から)【3回生】小竹明希音さん こたけ あきね
糠塚早智さん ぬかづか さち
井口春香さん いぐちはるか

大和大学保健医療学部の菅沼ゼミでは、吹田市社会福祉協議会と協力して、山手地区で健康測定講座を実施していた。コロナ禍で講座の中止や自粛生活が続く中、ひとり暮らし高齢者が心配という地域で見守り活動をしている地区福祉委員の声もあり、地域と学生をつなげるための取り組みとして「つながり瓦版」がはじまった。

作業療法士をめざす 学部ならではの工夫

コロナ禍で人に会わないので、高齢者の認知機能が低下することが危ぶまれている。そこで認知機能を維持するためのクロスワードやシリトリを瓦版に掲載した。また医療系学生の強みを生かし健康に役立つ情報を取り入れた。さらに、学生たちの趣味や最近あつた出来事を気軽に書き、より身近に感じてもらえるよう学生の顔写真も入れている。

高齢者の方からは、「メッセージでパワーがもらえる」「健康お役立ち情報を意識します」という返事もあり、非常に喜ばれている。



活動の輪は徐々に広がり、吹田警察や山手地区内の施設や団体も瓦版制作に参加。

今後もつづく学生と 地域のつながり

9月に地区福祉委員を対象に、学生が講師を務めるICT講座を予定している。

ICTが苦手な高齢者も多いことを踏まえ、わかりやすく使ってもらえるよう、地区福祉協議会、学生と一緒に進めていく。活動に携わる4回生の生島さんは、「地道に地域での活動を行っていることもあり、地域の方が大学に親近感をもってくれるようになったと感じる。この先も、ずっと瓦版や講座など、地域と学生が関わる活動が続き、元気な高齢者が増え、元気な地域になってくれたら」と話す。

高齢者と関わる魅力とは?

測定で高齢者の方から「ここにきてよかつた」と言ってもらえたことが忘れられない! 高齢者の方が喜んでくれて、自分が役に立てたと思えた時がすごくうれしい!

認知症は知らないから怖いだけ。その裏には理由があり悲しみがある。高齢者のパックグラウンドを理解し話してみる方が大切だと学んだ。話を聞くだけでなく、自分の経験として地域や高齢者に会ってみてほしい。

